

小橋敦子 / プロフィール

アムステルダムを拠点に活動する日本人ジャズピアニスト 小橋敦子、その独自のスタイルと情感あふれる演奏は、世界中のオーディエンスを魅了してきました。伝統的なジャズに現代的な要素を融合させることで、彼女の音楽は国境を超え、幅広い世代の音楽ファンの心に響きます。彼女の音楽の旅は、情熱と創造性、そして異文化の融合が生み出す、実に魅力的な物語です。



日本生まれの小橋敦子は、国際的なバックグラウンドを持ち、現在アムステルダムを拠点に活動しています。5歳でクラシックピアノを学び始め、慶應義塾大学法学部在学中にジャズと出会い、大学のビッグバンドに参加。東京のジャズシーンで演奏を重ねるうちに、ジャズへの情熱を深めていきました。

1994年から2001年までニューヨークに滞在し、ジャズマスターであるスティーブ・キューンのもとで研鑽を積みます。アジア、アメリカ、ヨーロッパと、3つの異なる文化圏での生活が彼女の音楽観を

大きく育み、国境を超えた独自のスタイルを生み出しました。その音楽は「温かく、自然で、人間味にあふれている」と評され、また「禅の哲学にも通じる、過不足のない美しさ」を持つとも言われています。ジャズをルーツとしながらも、彼女はすべてのメロディーに自らの個性を吹き込み、親密でありながら深みのある音楽を紡ぎ出します。

2005年にアムステルダムへ拠点を移してからは、オランダの著名なミュージシャンたちと共演を重ね、ベーシストのフランス・ファン・デル・フォーヴェン、トニー・オーバーウォーター、ドラマーのセバスティアン・カプティン、パーカッショニストのエディ・コープマン、トランペッターのアンジェロ・フェルプルーフェン、チェリストのマヤ・フリッドマン、ヴォーカリストのデニス・ジャーナー、また日本人ベーシスト井上陽介とのコラボレーションなど、多くのアーティストと共にデュオやトリオのアルバムを制作。これらの作品は、批評家やリスナーから高く評価されています。

2021年に日本でリリースされ、2022年には国際リリースされたベーシスト、トニー・オーバーウォーターとのデュオアルバム『Crescent』は、ドイツ・レコード批評家賞 (Der Preis der deutschen Schallplattenkritik 2/2022) およびオランダ・エジソン賞 (国内部門、2022年) にノミネートされました。2023年5月にリリースされた最新アルバム『Dum Thing』も、多くの賞賛を受けています。2023年秋にはエジプトのカイロ・ジャズ・フェスティバルにデュオで出演。さらに2024年夏には日本でのコンサートツアーを成功させるなど、精力的な活動を続けています。